

東工大と川崎市が連携協定結ぶ

新産業創出イノベーション推進へ

東京工業大学と川崎市はイノベーション推進に関する連携協定を結ぶことで合意し、5月21日に川崎市役所で締結式を行った。式では益一哉・東工大学長と福田紀彦・川崎市市長が協定書を取り交わした。協定期間は5年間で、必要なら協議のうえ延長できる。

川崎市はオープンイノベーションによる新産業創出を目指し、羽田空港の対岸の臨海部に「殿町国際戦略拠点キングスカイフロント」を整備し、内外の企業

や研究機関を集結させて、世界的成長が見込まれるライフサイエンス・環境分野を中心に、世界最高水準の研究開発から新産業を創出するオープンイノベーション拠点を展開している。東工大との連携も従来からあり、特に、双方が共同提案した事業プログラム「IT創業技術と化学合成技術の融合による革新的な分子創薬フローの事業化」



協定書を取り交わした益学長（左）と福田市長

が、文科省の地域イノベーション・エコシステム形成プログラムの支援対象に昨年採択され、今年3月には、キングスカイフロントに東工大「中分子IT創業研究拠点(MIDL)」として殿町拠点がオープンし運営を開始している。

今回の連携協定は、この殿町拠点での中分子IT創業を中心としたライフサイエンス分野に関するの連携協力をはじめ、双方の資源とネットワークを活かして、地域発のイノベーションを推進するとともに、多分野での連携・協力を図る目的で締結した。

臨海部国際戦略本部の鈴木毅本部長と白鳥滋之国際戦略推進部長が出席した。

益学長は「川崎市とはこれまで色々とつながりがあるが今回は新たな第1歩。川崎市を含む京浜地区は世界への発信力が大きいと思う」などと述べ、協定締結を歓迎した。また、福田市長も「川崎市が進める産学連携には東工大出身の企業幹部が多く、すでに協力し合っているが、これを更に発展させたい」と期待をかけた。

更に、MIDLをキングスカイフロントにオープンさせた秋山教授は「事業化という面を考え、研究拠点を大学内ではなく、内外の先端企業が集まるこの地に設けた」などと話した。